

国語科学習指導案

日 時 令和2年 2月 5日 (水)
児 童 5年生
授業場
授業者

1. 単元名「作者が言いたいことを探り推薦しよう」～雪わたり～

2. 単元の目標

宮沢賢治作品にこめられた作者が言いたいことを考えることを通して、人物同士の相互関係・表現の工夫・展開に着目し、心に残る優れた叙述を基に作品の全体像についての自分の考えをまとめながら読むことができる。

3. 単元観・児童観・指導観

本単元では、「雪わたり」を中心教材として、学習指導要領 C「読むこと」のイ「登場人物の相互関係や心情などについて、描写を基に捉えること」、エ「人物像や物語などの全体像を具体的に想像したり、表現の効果を考えたりすること」をねらいとする。

子供たちはこれまでに、「読むこと」領域の中では、「椋鳩十作品の魅力を解説書で紹介し合おう」という単元を物語文「大造じいさんとがん」を用いて学習してきた。「人物像を具体的に想像したり、表現の効果を考えたりすること」を中心に学習してきた。人物関係図などを用いることで、「登場人物の人物関係や人物像」については、感覚的に理解していく子供の様子が見られた。しかし、「物語の全体像を具体的に想像する力」を身に付けさせていくことが課題として残った。また、言葉一つ一つを捉えながら詳細に読もうとする姿勢は見られたが、文章全体の構成に着目したり、文章の前後を比較したりしながら読み進めるという点について課題が残った。

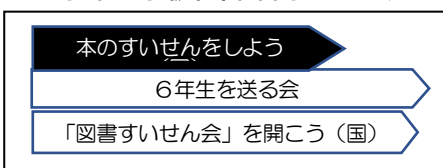
そのため、手立ては大きく2つある。

1つ目は、「**学びの必要性を生み出す課題設定Ⅰ**」である。単元の導入で、「宮沢賢治作品が大好きで、四十年経った今も大切にしている本が多数あります」「宮沢賢治さんは、苦勞している人だと思います。苦勞している人生を歩んでいるからこそ、本に作者の生き方が表れていると思います」「宮沢賢治さんらしい表現を読むと、私の心が揺さぶられます」等の宮沢賢治作品ファンの感想を紹介することで、「宮沢賢治作品は、どうして古くから読まれ、今も人々に親しまれているのか？」等の問いが児童から生まれるであろう。また、「宮沢賢治は、どんな作者で、どんな作品を書いているのかな？」という疑問や「様々な宮沢賢治作品を読んでみたい」という学びの必要感が生まれる。そこで、数十冊の宮沢賢治作品を提示し、並行読書していく中で、共通点に着目し、「どの作品にも、作者の言いたいことがあるのではないか」「宮沢賢治が言いたいことって何だろう」という課題をもつことができる。子供たちが、宮沢賢治が言いたいことを考える際には、今までの学びを生かし、「人物像」「表現の工夫」「展開」等の視点に着目することにより、学びの見直しをもち、その価値を自覚しながら、作品のもつ表現上の工夫や優れた叙述を味わえるであろう。

2つ目は、「**自他の表現を再検討する場を促す教師のかかわりⅡ**」である。既存の「立場」「根拠」等の「見方」を揺さぶり、新たな「見方」が必然的に引き出されるようにする。例えば、「四郎とかん子の涙ときつねの涙はなぜ違うのか？」などと教師が関わることで子供は、作者の言いたいことを明らかにするために物語の「展開」に着目して考えていく。

この手立てにより、「自己選択・自己決定していたことと現在の自分の変容」などの学びの自覚化を図ったり、学んだ内容を生かしてできるようになったことを考えたりし、自己の表現を再検討しながら、目標にせまっていけるようにする。

4. 学年・学級経営年間プログラムとのかかわり



本単元は、国語「本のすいせんをしよう」を核として、6送会などの行事と関連させながら表現する過程で、目的や意図を重視して読み、自分の考えを広げたり深めたりすることができるようにしていくことを目的としている。本単元は、「紹介」ではなく「推薦」で、他学年という「相手」を意識し、他学年に「宮沢賢治作品を読んでもらう」という「目的」「意図」を考えながら、「推薦シート」に自分の考えをまとめていく。

このような学びの過程の有用性が自覚されることにより、見方・考え方を働かせ、「コミュニケーション力」

このような学びの過程の有用性が自覚されることにより、見方・考え方を働かせ、「コミュニケーション力」

の育成を図っていく児童の姿を引き出していく。

5. 単元を通して育む「コミュニケーション力」

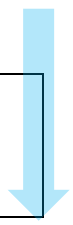
前述の手立てを講じることで、『宮沢賢治作品』をもっと読みたいな」「宮沢賢治が言いたいことを推薦するために、それぞれの作品の共通点や相違点について読んでいきたいな」「表現技法で工夫しているところは・・・」などと相互に関わり合いながら、表現の妥当性を高めていく姿を引き出せるようにしていく。本単元では、このような姿をコミュニケーション力を育てていく姿と捉え、必要に応じて、子供同士の関わり合いの価値をフィードバックすることで、単元を通して自立的にコミュニケーションを図っていくことができるようにする。

6. 評価規準

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
ア 語句と語句との関係、語句の構成や変化について理解し、語彙を豊かにしたり、語感や言葉の使い方に対する感覚を意識して、語や語句を使ったりすることができる。	ア 登場人物の相互関係や心情などについて、描写を基に捉えている。 イ 人物像や物語などの全体像を具体的に想像したり、表現の効果を考えたりしている。	ア 作品の叙述を比較するなどして読み、わかったことや考えたことを話し合ったり、文章にまとめようとしていたりしている。

7. 単元計画

時数	○主な学習活動	評価の観点			学び合いの過程 手立て
		知	思	主	
1	○宮沢賢治作品の読者の感想を読み、感想を交流する中で、「宮沢賢治は、どんな作者で、どんな作品を書いているのかな?」という疑問や「様々な宮沢賢治作品を読みたい」という学びの必要感をもつ。	ア			手立てⅠ ・作品の読書感想を提示することで、疑問や学びの必要感をもたせることができるようにする。
2	○宮沢賢治作品（並行読書教材）を読み、共通点や相違点を考え、感想を交流する。 「雪わたり」には、どのような「作者の言いたいこと」があるのだろうか?		ア		宮沢賢治作品を並行読書する。 手立てⅡ ・「宮沢賢治作品」の共通点・相違点を考えることで、自他の考えを再検討し、賢治の作品に対する自分なりの考えをもつことができるようにする。
3	○「作者が言いたいこと」を探るために、中心教材「雪わたり」を読む。 ・「雪わたり」の作者が言いたいことを探るための学習計画を立てる。 ・「作者が言いたいこと」に関わる叙述について、現時点での考えをもつ。			ア	手立てⅠ ・読みの目的意識と「雪わたり」の学習計画をつなげることができるようにする。
4	○「雪わたり」の「作者が言いたいこと」を探るために、「人物像」に着目して読む。 ・「作者が言いたいこと」に関わる叙述について、現時点での考えをもつ。		ア		手立てⅡ ・人物像の読みと現時点での作者の言いたいことを結び付け、再検討する。
5	○「雪わたり」の「作者が言いたいこと」を探るために、「表現技法」に着目して読む。 ・「作者が言いたいこと」に関わる叙述について、現時点での考えをもつ。		ア		手立てⅡ ・表現技法の読みと現時点での作者の言いたいことを結び付け、再検討する。
6 (本時)	○「雪わたり」の「作者が言いたいこと」を探るために、「雪わたり」を「展開」に着目し、既習の叙述、解釈を基にして考える。 ・「作者が言いたいこと」に関わる叙述について、現時点での考えをもつ。		イ		手立てⅡ ・展開の読みと現時点での作者の言いたいことを結び付け、再検討する。
7	○単元の学習を通して考えてきた「雪わたり」の作者が言いたいことをまとめる。		イ		手立てⅡ ・単元全体の読みと現時点での作者の言いたいことを結び付け、再検討する。



8 1 1	○中心教材や並行読書教材を読み直し、自分が選んだ宮沢賢治作品で「推薦シート」を書いたり、交流したりする。			ア	
-------------	--	--	--	---	--

8. 本時案

(1) 本時の目標

「四郎とかん子の紺三郎たちきつねに対する見方・考え方の変化」(展開)と「きつねの涙の意味」を基に、「作者が言いたいこと」について考えをまとめることができる。

(2) 本時の展開 (6 / 11)

学習活動 児童・生徒の姿 ○教師の働きかけ・発問 (△補助発問, □指示・説明) 手立て	【評価の観点】 ◇評価の内容 ・指導上の留意点
<p>1 前時までの活動を想起し、本時で考えることの見通しと必要感をもつ。</p> <p>○「雪わたり」の「作者が言いたいこと」を探るために、どのようなことが必要でしょうか。</p> <div style="border: 1px dashed black; padding: 5px; margin-top: 10px;"> ・「雪わたり」の「作者が言いたいこと」を探るためには、「展開」に着目したり、「作者が言いたいこと」とその理由を考えたりすることが必要だと思う。 </div> <p>2 「作者が言いたいこと」がこめられた叙述を出し合う。</p> <p>△今までの学習から、「作者が言いたいこと」が隠されている場所は見つかった？</p> <div style="border: 1px dashed black; padding: 5px; margin-top: 10px;"> ・紺三郎と四郎・かん子が涙を流したところかな？だって・・・ ・四郎とかん子が涙を流したところではないかな？どうしてかと言うと・・・ ・幻灯会に行くところかな？信用していないと、幻灯会には行かないよね。なぜなら・・・ ・一番最後のお土産をもらったところかな？理由は・・・ ・どれかな？山場だから、きびだんごを食べたところかな？ ・大きく場面が変わっているもんね。「作者が言いたいこと」をみんなで交流したいね。 </div>	<ul style="list-style-type: none"> ・必要に応じて、前時までの児童の発言やノートの記述を提示し、本時で考えることの見通しと必要感をもてるようにする。 ・自分の考えがもてない児童に対し、他の児童の記述や発言の中から一番納得いくものを選択するよう促す。
<p style="text-align: center;">「雪わたり」にこめられた「作者が言いたいこと」について考えよう。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・四郎とかん子の紺三郎たちきつねに対する見方・考え方の変化(展開)を捉えている児童の考えを取り上げ、「作者が言いたいこと」を考えるためのきっかけを学級全員で共有できるようにする。
<p>3 「作者が言いたいこと」を叙述を根拠に、精査・解釈する。手立てⅡ</p> <p>△きびだんごを食べたところに隠れている作者の言いたいことは何だろう。</p> <div style="border: 1px dashed black; padding: 5px; margin-top: 10px;"> ・「信じる」かな？だって、P63の後から2行目にあるように、四郎は弱ったり、かん子は真っ赤になったりして完璧に信用していなかったけど、P64の後から3行目の「四郎とかん子がきびだんごを食べたところ」や、P68の後から3行目で「二人のふところやかくしに、どんぐりだのくりだの青光りの石だのをに入れて」のように、お土産を渡したり、もらったりできる関係になっているね。 ・「信じ合う」ではないかな？理由は、P51の3行目の太右衛門と清作が、悪いものを食べたのを見たから「きつねを疑っていた」けど、幻灯会に誘ってもらったり、一緒に歌を歌ったりして、お互いの距離が近づいたからです。 ・どうして、そう思ったの？ ・P68の8行目の四郎とかん子は、あんまりうれしくて、涙がこぼれたし、きつねの生徒は、みんな感動して、両手を上げ、ワーッと立ち上がり、キラキラ涙をこぼしたからからだね。涙が違うね。 </div> <p>△四郎とかん子の涙ときつねの涙はどうして違うの？</p> <div style="display: flex; justify-content: space-between; margin-top: 10px;"> <div style="border: 1px dashed black; padding: 5px; width: 30%;"> ・四郎とかん子の涙は、P65～P66の三つの誓いなど、きつねの歌を聞いていて、四郎とかん子は、自分たちがきつねの学校生徒に信頼されたのがうれしかったし、自分たちのための歌や踊りに感動した涙だね。最初の頃、P47の9行目に「まだまるで小さいくせに」とあるしね。きつねと比べると普通かな。 </div> <div style="border: 1px dashed black; padding: 5px; width: 30%;"> ・P48の5行目に「きつねのだんごはうさのくそ」と歌っていた四郎とかん子がだんごを食べ、自分たちのことを100%信用してくれたからこそ、キラキラ涙をこぼしたね。しかも、全員が感動し、ワーッと立ち上がったから、涙に重みがあり、作者の言いたいことがぎっしりつまっていると思う。 </div> <div style="border: 1px dashed black; padding: 5px; width: 30%;"> ・P68のきつねは「スタンディングオベーション」の形で涙をこぼしているということは、P48のようにいつも人間に虐げられてきたから四郎とかん子の涙より感動が強かったのではないかと思うよ。 </div> </div>	<ul style="list-style-type: none"> ・四郎とかん子の涙ときつねの涙がなぜ違うのかを考える。(必要に応じて)
<div style="border: 1px dashed black; padding: 5px; margin-top: 10px;"> <p style="text-align: center;">最初に考えていた「作者が言いたいこと」と変わってきたな・・・</p> <p>【作者の言いたいこと思考例】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li style="width: 33%;">・「真の人間と動物の心の通じ合い」 <li style="width: 33%;">・「感動を越える」 <li style="width: 33%;">・「動物のことを分かってあげて」 <li style="width: 33%;">・「人間と動物の共存」 <li style="width: 33%;">・「信じ合う涙」 <li style="width: 33%;">・「本当の心のつながり」 </div>	<p>【思】</p> <p>◇「四郎とかん子が紺三郎たちきつねに対する見方・考え方の変化(展開)と「きつねの涙の意味」を基に、「作者が言いたいこと」について考えをまとめることができる。</p>
<p>4 本時の学習を振り返り、「推薦シート」で推薦したい「雪わたり」に込められた「作者の言いたいこと」の中心となる文を書く。</p>	

